

場とつながり

発行元 特定非営利活動法人（NPO 法人）場とつながりの研究センター
三田市三田町 29-1-14
電話 079・553・2521
FAX 079・553・2522
弊紙へのお問い合わせや会員お申込みは、右記までお願いいたします。

まちの顔を元増やしたい



新事務所の外観



事務所の前の道路元標

三田ほんまち通りに新拠点 心機一転、新事業もスタート

今年の6月、場とつながりの研究センターは、三田ほんまち通りに事務所を移転しました。まちの情報の交差点となる、人がつながる新しい「場」ができました。

新しい事務所は、元服屋さん——ここは、青と白の縞模様のひさしが鮮やかな「ヨネダ洋品店」の店舗でした。書か

れている電話番号は、市外局番が「0795」のときのまま。半世紀続いた体操服や紅白帽など

を扱うお店だったそうです。昔から三田小学校区近隣に住んでいた人には馴染みのある場所

にもなっています。空き家になってから3年が経とうとしていた今年の春、多くの方々のお力添えにより、私たちはここ

に新しい活動拠点を置くことができました。事務所の目の前で、三田城（現在の三田小学校付近）の城下町にある「三田本町通りセンター街」と、三輪神社の参拝道の先にあたる「車瀬橋商店街」とが交差しています。本町通り側には「札の辻（札場の辻）」と呼ばれる石碑もきれいな形で残存。札の辻とは、江戸時代に民衆へのおふれ（札）を出す場所

として城下町を中心に全国的に設けられたもので、その後、街の起点を示す道路元標の役割も果たしたそうです。ここを起点に本町通りに進めば大阪・神戸へ、三輪に進めば京都へ。現在の国道176号迂回ルートが整備されるまでは、本町通りは馬車も通るような旧国道の地位にあり、この場所は名実ともに長らく三田のにぎわいの中心にありました。

まちの人が気軽に集える場を

子どもたちも、まちの主人公

ここがそのような由緒正しき場所であることを教えてくださったのは、三田の歴史に詳しい地域の方々でした。おそらくみなさんの声がなければ、私たちは何も知らずに事務所としてこの場所を使うだけだったことでしょう。地域の人々にとって何気なく知っていることが、新参者にとって目からうろこの話であったり。また、日常生活で身についたちよっとしたこだわりの、これから始めようとする人にとって大きな目標となったり。一人ひとりが得意とするこ

とは、それぞれの生活背

まちカフェ&まちゼミ

新事務所で始まった注目の新事業、それが「まちカフェ！」と「まちゼミ」。7月にどちらも第1回が開催されましたので、その内容を報告します。

まちカフェ！は、お茶菓子片手におしゃべりを楽しむ、つながりづくりの場で、気軽に参加できる雰囲気作りに努めています。第1回（7月4日）は、参加者8名が和気あいあいとした雰囲気の中、退職後の生活の楽しみ方や地域のひとり暮らし高齢者の支援などを話題に語り合いました。

次回は8月8日（水）10：30～12：00まで、当事務所にて開催。参加費は500円で申し込み不要です。

まちゼミは、地域の方々を講師にお迎えする少人数のゼミ。第1回（7月6日）は、事務所お隣さんの道遊康浩さん（どうゆう電気社長）を講師にお迎えし、

「街の電器屋さんにて『節電』を聞く」をテーマに開催。次回は8月下旬の予定です。皆さまのお越しをお待ちしております！



情報提供や相談対応、また、「こんなことをしたい」という思いを実現するための企画づくりも、お手伝いします。まずはお気軽に新事務所へお立ち寄り、もしくはお問い合わせください。

編集後記

新事務所に移転して約2カ月。ありがたいのは、何気なく立ち寄ってくださる方々の存在。「おうち」な感じの飾らない店構えが好評。改めて家主の米田さんに感謝します。ほんまちにお越しの際は、ぜひお気軽にお立ち寄りください。時間がゆっくりと流れていますよ。ここが、みんなが安心してありのままにいられる「場」となりますように。

理事長 所信表明 新事務所お披露目式典の発表から

本日は、私どもの新事務所お披露目式典にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。まず、今日は、皆さんに、この新事務所が我々を何をしていくのかについて、発表したいと思えます。

その前に、新しい事務所の自慢をさせてください。この事務所は、なんと三田の中心地にあります！と言います。

元標があるのです。道路元標というのは、主要な道路の交差点や、道路の起終点、まさに中心地と言えるところに置かれるものだと思います。市内でも6か所しかないと言います。

■場とつながりをつくり、まちの笑顔を増やす
このように、素晴らしい事務所をお借りすることができましたので、その意味でも、ここで何をやるかが、本当に問われるところかなと思っています。

まずビジョンとして決めましたのが、「場」と「つながり」をつくり、まちの笑顔を増やす。私



の性格をご存じの方でしたら、こんなシンプルなのが出てきたことをちよつと褒めてほしいなど（笑）。

もともと私は私も、この場所であれをしたい、これをしてしたい、結構、難しいことをいっばい言うていたんです。ところが、理事会でその意見を言う、「夢がない」、「希望がない」、「暗いぞ、おまえ」という反応で。

実は私、意図して、希望とか笑顔というビジョンではなくて、もっと社会の問題をこう解決します、というようなものを提案していたのです。といいますのも、私はちよつと今40歳ですが、40歳より上の人と下の人で完全に違うマインドがあるそう

なんです。
私より年下の方々は、今日より明日が良くなるという感覚を持ったことがないそうです。だから、今日より明日が良くなる、多分いらつしやらないと思います。でも、高校時代がまさにバブルの真つただ中。大学を卒業するときに「あれっ？」みたいな状況でしたけれど、でもまだまだ、「まあ何とかなるだろう」みたいな。この「何とかなる」が、まさしく「今日より明日が良くなるはず」という希望です。若い人たちはそういうものを持ったことがないらしい。だからこそ、夢とか希望とか笑顔とかでなくて、もっと現実的なことを言おうとしていました。

ところが、理事や、その他いろいろな方から話を聞いてみると、いや、違うのではないかと、いう意見が大半でした。そういう若い人たちが多いならば、なおのこと、その人たちが笑顔になるためにはどうしたらいいのか考えなければいけない。今日より明日が良くなる、ということを感じられないのは、やっぱ悲しいことじゃないかと。

そこで、まずは笑顔を増やすということに、活

動の焦点を当てようということになりました。

■場とつながりとは
まちの笑顔を増やす。

これの意味の分からない方は、多分いらつしやらないと思います。でも、高校時代がまさにバブルの真つただ中。大学を卒業するときに「あれっ？」みたいな状況でしたけれど、でもまだまだ、「まあ何とかなるだろう」みたいな。この「何とかなる」が、まさしく「今日より明日が良くなるはず」という希望です。若い人たちはそういうものを持ったことがないらしい。だからこそ、夢とか希望とか笑顔とかでなくて、もっと現実的なことを言おうとしていました。

「場」というのは、共有する場所。今日のこの場のことです。私はお声掛けした側ですので、ここにいらつしやる方すべてのお名前が分かりますが、おそらく皆さん同士では「あの人だれ？」という方がたくさんいらつしやると思います。でも、「場」を共有することによって、そういう人たちがつながる可能性がある。直接つながらなくても、「この間あの交流会のときにいた、名前は忘れたんだけど、あの、誰だったけ？」みたいに私に聞いたら、あの人ですね。と、その人たちが笑顔になるためにはどうしたらいいのか考えなければいけない。今日より明日が良くなる、ということを感じられないのは、やっぱ悲しいことじゃないかと。



ずです。想いはまさにエネルギーを生み出し、そのエネルギーが社会のいろんな課題を解決する原動力になる。そして、いろんな課題が解決することで笑顔が生まれる。という形で私どもは「場とつながり」というのを考えています。

個人的には、「場」の一番分かりやすい例は、砂鉄の中に磁石を入れたときと思っています。

一つ一つの砂の粒は、磁石が入らなかつたら、ただの砂です。けれど、そこに磁石を入れることによって、磁力が生まれ、砂は整然と並びます。何かまとまった気になりますよね。磁力というエネルギーによって砂の粒がつながったことで、「場」が生まれている感じがしませんか？

■「この指とまれ」
この「場とつながり」の考え方のポイントは、「つながり」や「場」をつくるきっかけが磁石

1本、つまり「この指とまれ」と声を上げる人だということです。

例えば、今日のこの「場」は、私どもの団体が「こんなイベントやります、集まってください！」とお願ひして生まれた「場」です。このように、誰か声を掛ける人が必要です。

声を掛ける人が多くなれば、三田にはいろんな「場」が生まれる。そのいろんな「場」によって「つながり」がいつぱいできる。いつぱい生まれた「つながり」がエネルギーとなって、いろんなものを解決する。というのも、私の考える「場とつながり」です。どんな自分から何かをしよう、人を集めて何かをしようという人を増やすことも、我々が考える「場とつながり」を生み出す一つの活動です。

■事業の3つの軸足
とはいいいまでも、私どもは人数的にそんなに多い団体ではありませんし、パワーも限られています。事業内容を、何かしら絞り込まなければならぬ。そこで、事業の軸足を3つ考えました。これに当てはまることをやろうと思っています（下図）。

1つ目は「20年後」。

30年後でもいいんですけど、とりあえず未来。3年後、5年後ではないという意味で「20年後」としています。

もう1つ目の軸は、「市民活動のために」。市民がみずから始めた市民活動であれば、団体である必要はありません。市民が自分でやるうと思つて、他人任せでなく動き出すことが重要で、それを支援します。

3つ目の軸が「三田のために」。やつぱり地元三田のために活動しないと、ここにいる意味がありませんから。具体的な活動として

は、中心は今まで通り市民活動の支援です。昨年度までは三田市から皆さんの税金をいただいで、無料で相談対応をしていたのですが、今年度からは税金をいただいていないので、有料対応になります。その分、対応レベルはさらに高いものをご提供していきたいと思つています。その他の軸でも、左図にあるような事業を行つていきますので、今後も皆さまのご支援、ご協力をいただきますよう、よろしくお願ひします。

ご清聴、ありがとうございます。

